

表 1-3-2

F1 性別	2 だれもが最低限の生活が保障されることが	5 個人としての自由な生き方が尊重されること	6 人とのちがいが大切にされること
男性	3.5	3.4	3.4
女性	3.7	3.5	3.6
性別未選択者	3.7	3.5	3.8
合計	3.6	3.5	3.5

表 1-3-1 と表 1-3-2 により、「2 だれもが最低限の生活が保障されること」、「5 個人としての自由な生き方が尊重されること」、「6 人とのちがいが大切にされること」について、性別との間に統計的有意差が認められ、人権が尊重されていることの理解は、性別未選択者、女性、男性の順になることがわかります。

表 1-3-1

表 1-4-1 は、年代別と「人権が尊重されている」こととの関連について χ^2 検定を行った結果です。すべての項目において統計的に有意な関連が認められます。

表 1-4-2 は、表 1-4-1 において統計的有意差が認められた項目について平均値を示しています。

表 1-4-1

		合計	そう 思う	言 え ば そ う 思 う	ど ち ら か と 思 わ な い	言 え ば そ う と	ど ち ら か と 思 わ な い	そ う は 思 わ な い	有意 差 検 定
1 周りの人から思いやりや優しさを かけられること	10歳代	127	66.9%	29.1%	1.6%	2.4%	p=.015 *		
	20歳代	175	57.7%	34.9%	5.7%	1.7%			
	30歳代	177	49.7%	37.3%	7.9%	5.1%			
	40歳代	194	45.4%	41.8%	8.8%	4.1%			
	50歳代	216	48.6%	34.7%	10.6%	6.0%			
	60歳代	263	46.8%	38.0%	8.7%	6.5%			
	70歳代以上	230	54.3%	34.8%	7.4%	3.5%			
	合計	1382	51.7%	36.2%	7.7%	4.4%			
2 だれもが最低限の生活が保障され ること	10歳代	128	82.8%	14.8%	2.3%	0.0%	p=.01 *		
	20歳代	175	68.6%	28.0%	3.4%	0.0%			
	30歳代	179	65.4%	29.6%	2.8%	2.2%			
	40歳代	193	59.6%	31.6%	4.1%	4.7%			
	50歳代	218	65.6%	30.3%	3.7%	0.5%			
	60歳代	265	69.1%	24.2%	3.4%	3.4%			
	70歳代以上	232	66.4%	26.3%	6.0%	1.3%			
	合計	1390	67.5%	26.8%	3.8%	1.9%			
3 だれもが差別されることなく生き やすいこと	10歳代	128	89.1%	10.2%	0.8%	0.0%	p=.01 *		
	20歳代	175	78.9%	18.3%	2.9%	0.0%			
	30歳代	179	77.1%	19.6%	1.7%	1.7%			
	40歳代	194	71.1%	22.7%	1.5%	4.6%			
	50歳代	218	77.5%	20.6%	1.8%	0.0%			
	60歳代	266	79.7%	16.5%	2.3%	1.5%			
	70歳代以上	234	75.2%	20.5%	3.8%	0.4%			
	合計	1394	77.8%	18.7%	2.2%	1.2%			
4 競争による勝ち負けがまったくなく、 みんな同じ評価がされること	10歳代	128	21.9%	20.3%	35.9%	21.9%	p<.001 ***		
	20歳代	175	13.7%	20.6%	36.0%	29.7%			
	30歳代	179	10.6%	9.5%	39.1%	40.8%			
	40歳代	194	5.7%	14.9%	41.2%	38.1%			
	50歳代	218	13.3%	18.3%	39.4%	28.9%			
	60歳代	263	10.6%	17.1%	30.8%	41.4%			
	70歳代以上	231	18.2%	19.9%	29.9%	32.0%			
	合計	1388	13.0%	17.2%	35.7%	34.1%			
5 個人としての自由な生き方が尊重され ること	10歳代	127	77.2%	22.0%	0.0%	0.8%	p<.001 ***		
	20歳代	175	75.4%	22.9%	1.7%	0.0%			
	30歳代	178	60.1%	32.0%	7.9%	0.0%			
	40歳代	194	49.0%	40.2%	8.2%	2.6%			
	50歳代	217	51.2%	38.2%	8.3%	2.3%			
	60歳代	266	51.9%	36.5%	8.3%	3.4%			
	70歳代以上	229	52.4%	37.6%	7.9%	2.2%			
	合計	1386	57.8%	33.8%	6.6%	1.8%			
6 人とのちがいが大切にされること	10歳代	128	79.7%	18.8%	1.6%	0.0%	p<.001 ***		
	20歳代	175	78.9%	19.4%	1.7%	0.0%			
	30歳代	179	62.6%	30.2%	5.0%	2.2%			
	40歳代	195	60.5%	31.3%	5.1%	3.1%			
	50歳代	218	56.4%	33.5%	8.3%	1.8%			
	60歳代	266	57.1%	32.7%	7.1%	3.0%			
	70歳代以上	231	49.4%	39.4%	5.6%	5.6%			
	合計	1392	61.7%	30.5%	5.3%	2.5%			

表 1-4-2

F2 年齢	2 だれもが最低限の生活が保障されること	3 だれもが差別されることなく生きやすいこと	5 個人としての自由な生き方が尊重されること	6 人とのちがいが大切にされること
10歳代	3.8	3.9	3.8	3.8
20歳代	3.7	3.8	3.7	3.8
30歳代	3.6	3.7	3.5	3.5
40歳代	3.5	3.6	3.4	3.5
50歳代	3.6	3.8	3.4	3.4
60歳代	3.6	3.7	3.4	3.4
70歳代以上	3.6	3.7	3.4	3.3
合計	3.6	3.7	3.5	3.5

表 1-4-1 と表 1-4-2 より、総じて年齢が低いほど「人権が尊重されている」ことへの理解が進んでいると解釈されます。

年齢が低いほど「人権が尊重されている」ことへの理解が進んでいると解釈されることは、非常に好ましい傾向と評価できます。なお、「1 周りの人から思いやりや優しさをかけられること」については設問項目として適当ではなかったことから、ここでは、評価を控えることといたします。

表 1-5-1 は、職種によって、「人権が尊重されている」ことへの認識に違いがあるかどうかを確認するために、職種と個々の項目との関連について統計的検定を行ったものです。

いずれの項目も、職種の違いによって「人権が尊重されている」ことへの認識において統計的に有意差が認められます。

表 1-5-2 は、表 1-5-1 において統計的有意差が認められた項目について平均値を示しています。

表 1-5-1

		合計	そう 思う	思 う	ど ち ら か と 思 え ば そ う	ど ち ら か と 思 わ な い	ど ち ら か と 思 え ば そ う	ど ち ら か と 思 わ な い	そ う は 思 わ ない	有意 差 検 定
1 周りの人から思いやりや優しさを かけられること	自営業	72	37.5%		38.9%		11.1%		12.5%	p<.001 ***
	自由業	14	21.4%		50.0%		21.4%		7.1%	
	公務員・教員	60	63.3%		26.7%		5.0%		5.0%	
	経営者・役員	35	57.1%		37.1%		2.9%		2.9%	
	正規職員	321	45.5%		38.6%		10.9%		5.0%	
	非正規職員	280	53.9%		36.4%		7.5%		2.1%	
	学生	167	64.7%		31.7%		1.8%		1.8%	
	無職	419	50.8%		36.3%		7.6%		5.3%	
	合計	1368	51.6%		36.2%		7.7%		4.5%	
2 だれもが最低限の生活が保障される こと	自営業	72	59.7%		31.9%		2.8%		5.6%	p=.013 *
	自由業	14	71.4%		21.4%		7.1%			
	公務員・教員	60	70.5%		24.6%		4.9%			
	経営者・役員	35	54.3%		31.4%		8.6%		5.7%	
	正規職員	321	59.6%		32.3%		5.3%		2.8%	
	非正規職員	280	69.4%		27.1%		2.5%		1.1%	
	学生	167	77.2%		21.0%		1.8%			
	無職	419	69.8%		24.5%		3.8%		1.9%	
	合計	1368	67.4%		27.0%		3.8%		1.9%	
3 だれもが差別されることなく生きや すいこと	自営業	72	76.4%		18.1%		2.8%		2.8%	p=.049 *
	自由業	14	64.3%		28.6%		7.1%			
	公務員・教員	60	85.2%		13.1%				1.6%	
	経営者・役員	35	77.1%		14.3%		2.9%		5.7%	
	正規職員	321	72.8%		23.2%		2.2%		1.9%	
	非正規職員	280	80.3%		18.3%		1.1%		0.4%	
	学生	167	86.2%		12.0%		1.8%			
	無職	419	76.4%		19.1%		3.3%		1.2%	
	合計	1368	77.8%		18.7%		2.2%		1.2%	
4 競争による勝ち負けがまったくなく、 評価がされること	自営業	72	5.6%		22.2%		37.5%		34.7%	p=.006 **
	自由業	14			7.1%		14.3%		78.6%	
	公務員・教員	60	11.5%		14.8%		39.3%		34.4%	
	経営者・役員	35	2.9%		17.1%		34.3%		45.7%	
	正規職員	321	9.0%		15.8%		37.6%		37.6%	
	非正規職員	280	13.5%		19.9%		35.8%		30.9%	
	学生	167	18.6%		19.2%		36.5%		25.7%	
	無職	419	15.9%		16.2%		34.7%		33.3%	
	合計	1368	12.9%		17.4%		36.0%		33.8%	
5 個人としての自由な生き方が尊重さ れること	自営業	72	43.7%		42.3%		2.8%		11.3%	p<.001 ***
	自由業	14	64.3%		21.4%		14.3%			
	公務員・教員	60	63.9%		27.9%		8.2%			
	経営者・役員	35	51.4%		45.7%				2.9%	
	正規職員	321	54.7%		36.6%		7.5%		1.2%	
	非正規職員	280	56.9%		32.9%		8.5%		1.8%	
	学生	167	80.1%		18.1%		1.2%		0.6%	
	無職	419	53.3%		37.6%		7.9%		1.2%	
	合計	1368	57.7%		33.9%		6.7%		1.7%	
6 人とのちがいが大切にされること	自営業	72	52.8%		34.7%		4.2%		8.3%	p<.001 ***
	自由業	14	57.1%		28.6%		14.3%			
	公務員・教員	60	65.6%		26.2%		6.6%		1.6%	
	経営者・役員	35	57.1%		20.0%		14.3%		8.6%	
	正規職員	321	58.8%		33.4%		5.6%		2.2%	
	非正規職員	280	61.4%		32.3%		4.6%		1.8%	
	学生	167	82.0%		15.6%		2.4%			
	無職	419	57.5%		33.5%		6.2%		2.9%	
	合計	1368	61.7%		30.4%		5.4%		2.5%	

表 1-5-2

F3 職業	2 だれもが最低限の生活が保障されること	3 だれもが差別されることなく生きやすいこと	5 個人としての自由な生き方が尊重されること	6 人とのちがいが大切にされること
自営業	3.5	3.7	3.2	3.3
自由業	3.6	3.6	3.5	3.4
公務員・教員	3.7	3.8	3.6	3.6
経営者・役員	3.3	3.6	3.5	3.3
正規職員	3.5	3.7	3.5	3.5
非正規職員	3.7	3.8	3.5	3.5
学生	3.8	3.8	3.8	3.8
無職	3.6	3.7	3.4	3.5
合計	3.6	3.7	3.5	3.5

表 1-5-1 と表 1-5-2 によると、次のような解釈が可能です。

「2 だれもが最低限の生活が保障されること」では、公務員・教員、学生、非正規が、他の職種よりも平均値が高くなっています。

「3 だれもが差別されることなく生きやすいこと」では、公務員・教員、非正規職員、学生が他の職種よりもやや平均値が高くなっています。

「5 個人としての自由な生き方が尊重されること」では、学生の平均値が極めて高く、逆に、自営業では平均値が低くなっています。

「6 人とのちがいが大切にされること」では、学生の平均値が他の職種よりも極めて高く、自営業、経営者・役員が低くなっています。

これら 4 項目に限れば、人権についての理解として、学生、公務員・教員、非正規の理解度が最も高いと言えます。

地区の違いによって、「人権が尊重されている」ことのとらえ方が異なるかどうかについても統計的な検定を行いました。その結果、表 1-6-1 に示す 2 項目について統計的に有意差が認められます。

表 1-6-2 は、表 1-6-1 において統計的有意差が認められた項目について、平均値を求めたものです。

表 1-6-1

		合計	そう思う	えど ばち そら うか う 思 う 言	えど ばち な そら い う か 思 と 言	そ う は 思 わ な い	有意差 検 定
5 個人としての自由な生き方が尊重されること	三田地区	158	62.0%	32.3%	5.1%	0.6%	p<.001 ***
	三輪地区	179	53.6%	32.4%	10.1%	3.9%	
	広野地区	57	57.9%	24.6%	17.5%	0.0%	
	小野地区	29	58.6%	31.0%	10.3%	0.0%	
	高平地区	35	48.6%	37.1%	2.9%	11.4%	
	藍地区	26	42.3%	42.3%	15.4%	0.0%	
	本庄地区	23	65.2%	26.1%	8.7%	0.0%	
	フラワータウン地区	271	60.5%	31.0%	7.4%	1.1%	
	ウッディタウン地区	438	58.0%	37.0%	3.9%	1.1%	
	カルチャータウン地区	47	57.4%	36.2%	4.3%	2.1%	
	つつじが丘地区	86	60.5%	36.0%	2.3%	1.2%	
	合計	1349	58.1%	33.8%	6.4%	1.6%	
	6 人ととのちがいが大切にされること	三田地区	158	69.0%	23.4%	5.1%	
三輪地区		179	59.8%	26.8%	8.9%	4.5%	
広野地区		57	54.4%	33.3%	8.8%	3.5%	
小野地区		29	75.9%	20.7%	3.4%		
高平地区		35	60.0%	28.6%	5.7%	5.7%	
藍地区		26	46.2%	38.5%	11.5%	3.8%	
本庄地区		23	65.2%	21.7%	8.7%	4.3%	
フラワータウン地区		271	64.1%	30.0%	4.0%	1.8%	
ウッディタウン地区		438	59.8%	34.3%	4.3%	1.6%	
カルチャータウン地区		47	56.3%	31.3%	2.1%	10.4%	
つつじが丘地区		86	66.7%	29.9%	3.4%		
合計		1349	62.0%	30.2%	5.2%	2.6%	

表 1-6-2

F4地区	5 個人としての の自由な生き 方が尊重され ること	6 人とのちが いが大切にさ れること
三田地区	3.6	3.6
三輪地区	3.4	3.4
広野地区	3.4	3.4
小野地区	3.5	3.7
高平地区	3.2	3.4
藍地区	3.3	3.3
本庄地区	3.6	3.5
フラワータウン地区	3.5	3.6
ウッディタウン地区	3.5	3.5
カルチャータウン地区	3.5	3.3
つつじが丘地区	3.6	3.6
合計	3.5	3.5

表 1-6-1 と表 1-6-2 によると、「5 個人としての自由な生き方が尊重されること」では、高平地区、藍地区が他の地区よりも平均値が低い傾向にあります。また、「6 人とのちがいが大切にされること」では小野地区が他の地区よりも平均値が高く、藍地区とカルチャータウン地区において他の地区よりも低い傾向が見られます。

しかし、これら 2 項目の結果だけで人権についての理解に地域差があると結論づけるには慎重を期す必要があります。

問2 次のことがらについてあなたはどのように思われますか。

(それぞれ一つに○をつけてください)

問2は、回答者自身の人権意識を測るために用意した設問です。

「1 差別の原因は、差別をされる人の側にもある」、「5 差別、差別と騒ぎすぎるので、かえって差別はなくならないと思う」、「7 差別をされた人のくやしさを分からなくても仕方ない」、「8 人権や差別について、あまり関心がない」の項目については、「そう思わない」、「どちらかと言えばそう思わない」、「どちらかと言えばそう思う」、「そう思う」の順に、人権意識は低くなると解釈されます。「2 人権学習に参加したいと思う」、「3 自分も気づかないうちに、人を差別してしまうかもしれない」、「4 公共交通機関で、高齢者、障害のある人、妊娠している人、乳幼児連れの人、体調不良の人等に席を譲るようにしている」、「6 差別発言を耳にした場合、やめるように注意したい」、「9 ひとり親家族も多様な家族形態の一つであると思う」の項目については、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」、「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」の順に人権意識は低くなると解釈されます。

表2-1は度数分布を示しています。

「4 公共交通機関で、高齢者、障害のある人、妊娠している人、乳幼児連れの人、体調不良の人等に席を譲るようにしている」は、「そう思う」55.3%、「どちらかと言えばそう思う」40.1%と合わせると95.4%となっています。また、「9 ひとり親家族も多様な家族形態の一つであると思う」は、「そう思う」71.9%、「どちらかと言えばそう思う」23.6%を合わせると、95.5%となっています。「7 差別をされた人のくやしさを分からなくても仕方ない」に「そう思わない」41.1%、「どちらかと言えばそう思わない」40.9%を合わせると82.0%になります。「3 自分も気づかないうちに、人を差別してしまうかもしれない」は、「そう思う」は21.1%とあまり高くないのですが、「どちらかと言えばそう思う」は57.0%と高く、合わせると78.1%となります。また、「6 差別発言を耳にした場合、やめるように注意したい」も、「そう思う」は18.4%と高くないのですが、「どちらかと言えばそう思う」は61.7%と高く、合わせると80.1%となります。

しかし、気になる点もあります。「1 差別の原因は、差別をされる人の側にもある」は、「そう思わない」32.5%、「どちらかと言えばそう思わない」37.2%を合わせると69.7%と高いのですが、「そう思う」6.0%、「どちらかと言えばそう思う」23.3%で、合わせた29.3%がYESと賛同していることとなります。「2 人権学習に参加したいと思う」は、「そう思う」7.2%、「どちらかと言えばそう思う」30.3%で、回答者の37.5%だけが人権学習に参加する意思があるという結果になっています。また、「8 人権や差別について、あまり関心がない」に「そう思う」4.4%と高くないのですが、「どちらかと言えばそう思う」20.7%と合わせると、回答者の25.1%は「人権や差別に関心がない」結果となっています。さらに、気になる点として、「5 差別、差別と騒ぎすぎるので、かえって差別はなくならないと思う」に「そう思う」18.0%、「どちらかと言えばそう思う」35.1%を合わせると53.1%となり、過半数以上の人が、差別について「騒ぎすぎるとかえって差別はなくならない」と考えているという点を指摘できます。

表2-1の右端の数値は、人権意識について、点数が高いほど人権意識が高くなるように点数化して平均値を求めたものです。「1 差別の原因は、差別をされる人の側にもある」、

「5 差別、差別と騒ぎすぎるので、かえって差別はなくならないと思う」、「7 差別をされた人のくやしさを分からなくても仕方ない」、「8 人権や差別について、あまり関心がない」の項目については、「そう思う」1、「どちらかと言えばそう思う」2、「どちらかと言えばそう思わない」3、「そう思わない」4 とします。文末に（逆）を付します。「2 人権学習に参加したいと思う」、「3 自分も気づかぬうちに、人を差別してしまうかもしれない」、「4 公共交通機関で、高齢者、障害のある人、妊娠している人、乳幼児連れの人、体調不良の人等に席を譲るようにしている」、「6 差別発言を耳にした場合、やめるように注意したい」、「9 ひとり親家族も多様な家族形態の一つであると思う」の項目については、「そう思う」4、「どちらかと言えばそう思う」3、「どちらかと言えばそう思わない」2、「そう思わない」1 とします。

項目ごとの平均値を求めることにより、人権に関する考え方として、市民の間で人権意識が比較的高いと解釈される考え方と、人権意識が高いとは言えない考え方とがあることがわかります。「2 人権学習に参加したいと思う」がとりわけ低く、次いで、「5 差別、差別と騒ぎすぎるので、かえって差別はなくならないと思う・逆」が低いと言えます。

なお、「1 差別の原因は、差別をされる人の側にもある」については、当市において2007年度に実施した人権意識調査（以下では、「2007年調査」と略記する）の同じ項目についての平均値も併記しています。今回の調査を、「2020年調査」と称するならば、「1 差別の原因は、差別をされる人の側にもある・逆」については、2020年調査のほうが、2007年調査よりも平均値が0.1下がる結果となりました。

表 2-1

	合計	そう思う	言えち ばら そう うと	言えち ばら そう うと	言えち ばら そう うと	無回答	平均値	調 2 査 0 平 0 均 7 値 年
1 差別の原因は、差別をされる人の側にもある・逆	1420	6.0%	23.3%	37.2%	32.5%	1.0%	3.0	3.1
2 人権学習に参加したいと思う	1420	7.2%	30.3%	38.8%	22.7%	1.0%	2.2	
3 自分も気づかぬうちに、人を差別してしまうかもしれない	1420	21.1%	57.0%	15.1%	5.8%	1.0%	3.5	
4 公共交通機関で、高齢者、障害のある人、妊娠している人、乳幼児連れの人、体調不良の人等に席を譲るようにしている	1420	55.3%	40.1%	3.7%	0.5%	0.4%	3.5	
5 差別、差別と騒ぎすぎるので、かえって差別はなくならないと思う・逆	1420	18.0%	35.1%	29.9%	16.5%	0.4%	2.5	
6 差別発言を耳にした場合、やめるように注意したい	1420	18.4%	61.7%	15.0%	4.0%	0.9%	3.0	
7 差別をされた人のくやしさを分からなくても仕方ない・逆	1420	3.8%	13.2%	40.9%	41.1%	0.9%	3.2	
8 人権や差別について、あまり関心がない・逆	1420	4.4%	20.7%	43.2%	31.1%	0.6%	3.0	
9 ひとり親家族も多様な家族形態の一つであると思う	1420	71.9%	23.6%	2.8%	1.2%	0.5%	3.7	

□ そう思う □ どちらかと言えばそう思う □ どちらかと言えばそう思わない □ そうは思わない □ 無回答

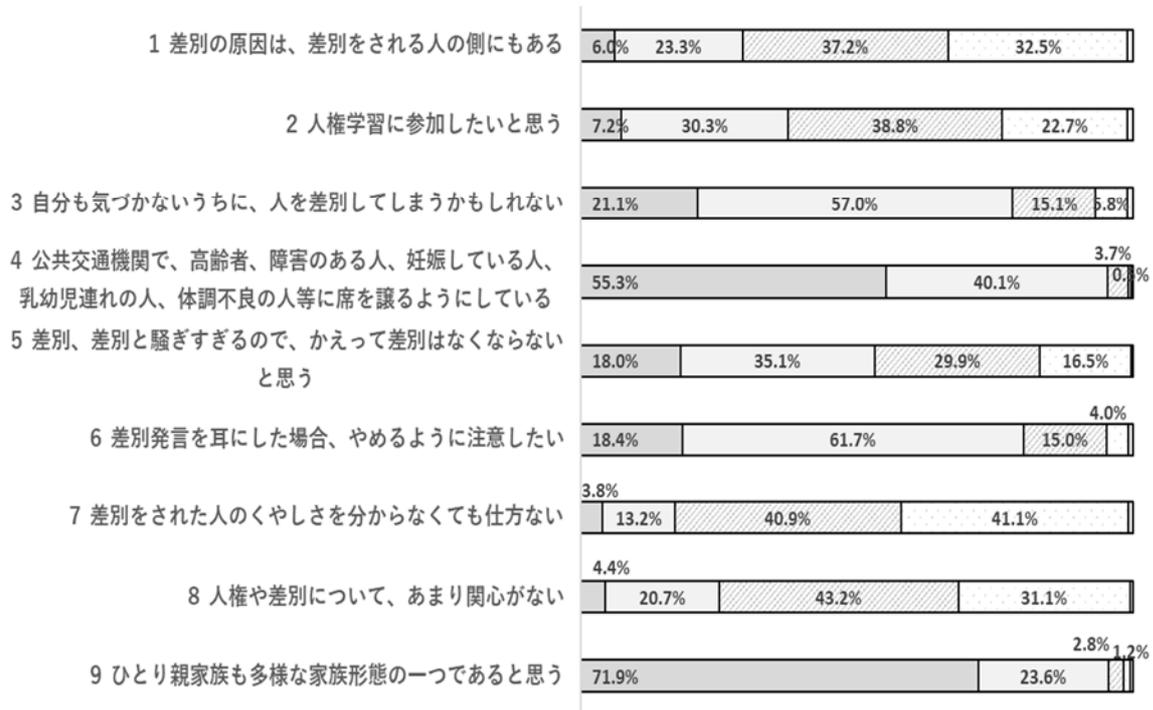


図 2-1

表 2-2-1 は、性別と人権意識との関連をみるためにクロス集計と χ^2 検定を行ったものです。

表 2-2-2 は、表 2-2-1 において統計的有意差の認められた項目について、平均値を求めたものです。